



OEPC

一般社団法人 ウラノス・エコシステム推進センター
Ouranos Ecosystem Promotion Center

産業データ連携の未来を共創する

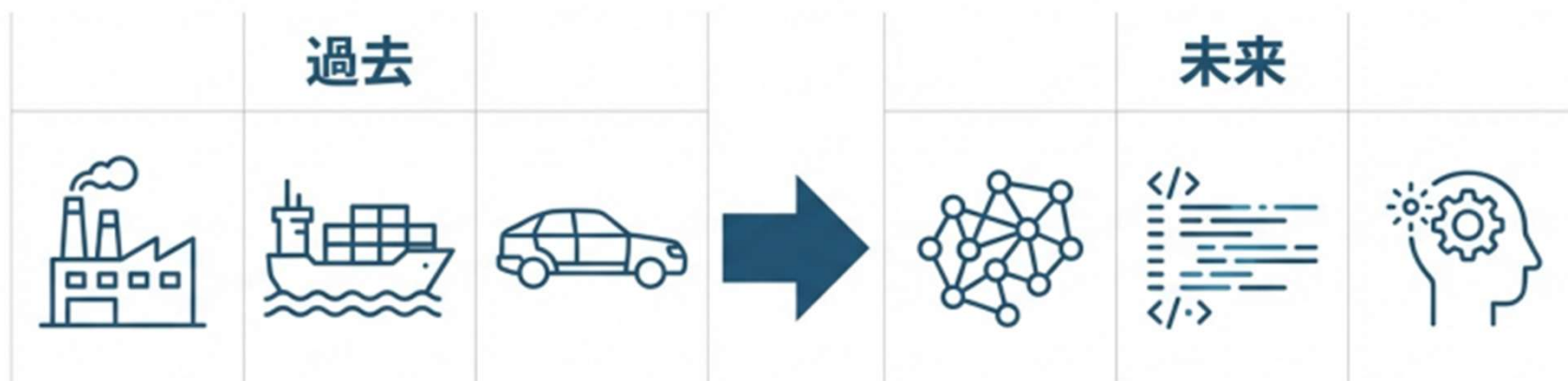
ウラノス・エコシステム推進センター(OEPC)

ユースケース創出プロジェクト募集

2026年2月25日

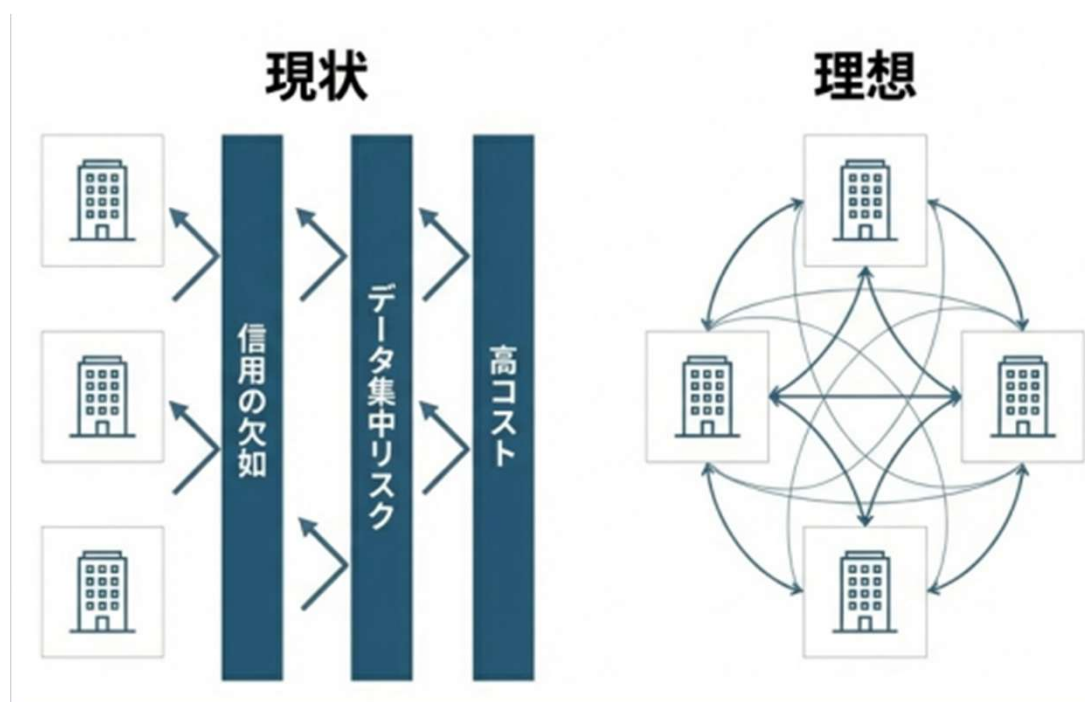
CONFIDENTIAL

企業の競争力の源泉は、有形資産からデータ・ソフトウェアといった無形資産へシフトしています



- ・ソフトウェア駆動のデータ利活用が、新たな付加価値を創出する時代へ
- ・これまで企業内に蓄積されていた「産業用データ」の活用が、競争優位性を左右する重要な要因に

企業や業界を横断したデータ連携は、価値創出において不可欠である一方課題も多く抱えています

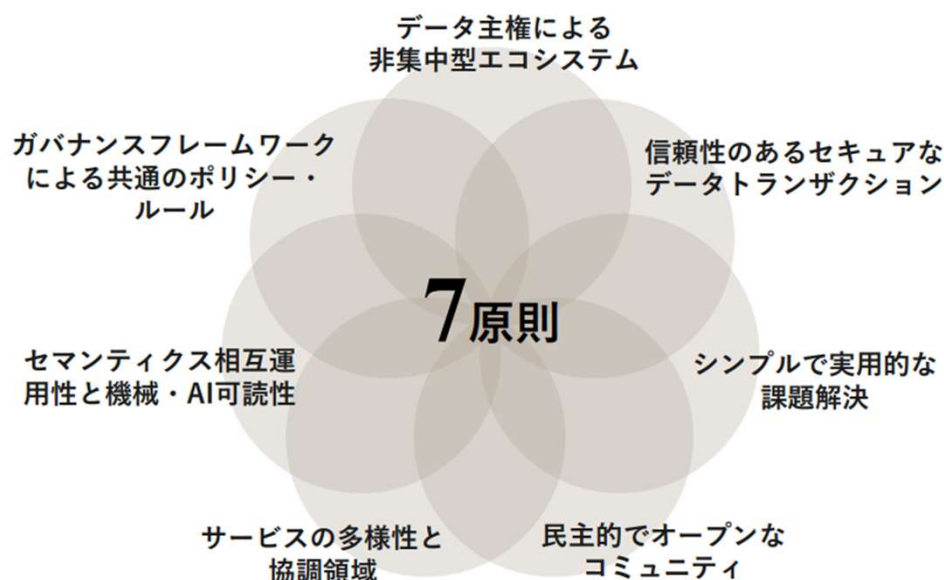


■信頼性の課題：競合他社からの意図しないアクセス、特定のプラットフォームへのデータ集中に対する警戒感。

■コストの課題：各社、各業界団体が類似システムに重複投資し、本来の競争領域に資源を集中できない

■相互運用の課題：業界やシステムごとにデータ形式がルールが異なり円滑な連携が困難

この課題を解決するため、 国は「ウラノス・エコシステム」構想を提唱しています



データ主権による非集中型エコシステム
自社のデータを自らコントロールし、
安心して連携できる環境を実現



サービスの多様性と協調領域
業界共通の基盤（協調領域）を共創することで、
各社は競争領域での価値創造に集中



信頼性のあるセキュアなデータトランザクション
参加者間の信頼を担保する、安全なデータ取引の
ルールと仕組みを提供

出典：ウラノス・エコシステム・データスペースズ リファレンスアーキテクチャモデル ホワイトペーパー

CONFIDENTIAL

ウラノス・エコシステムの選定要件

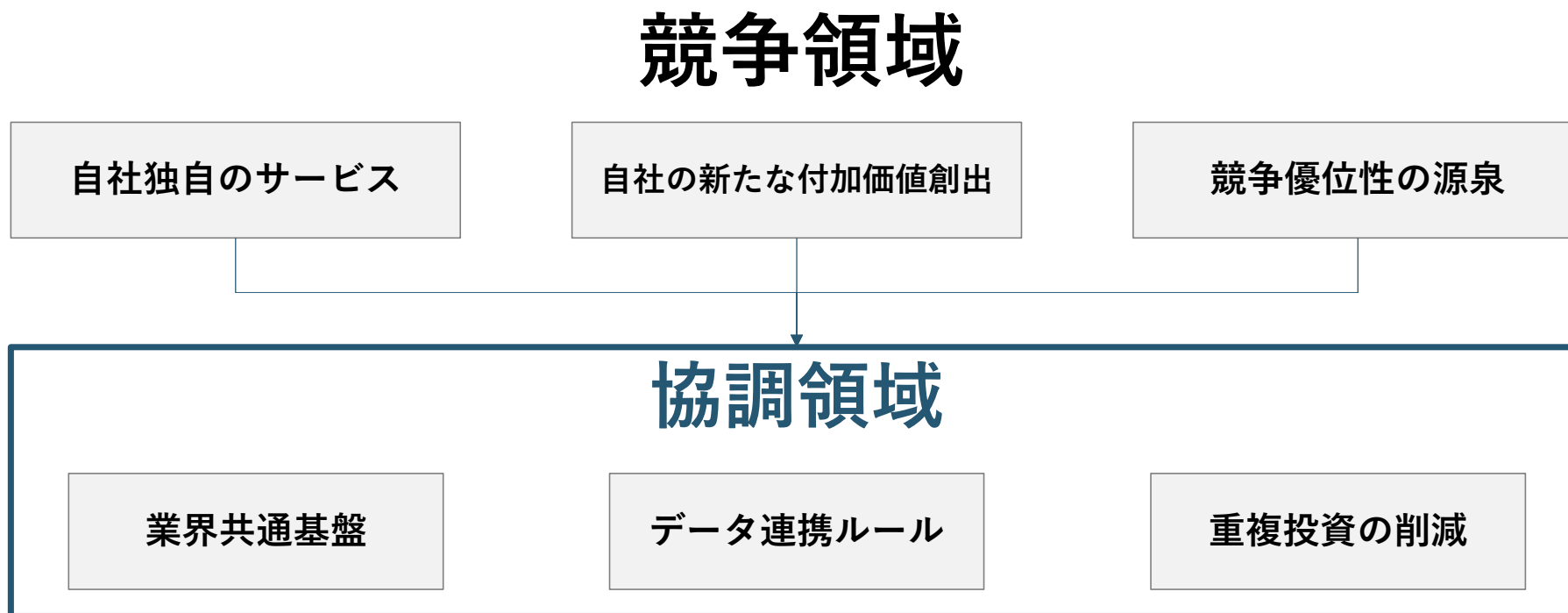


https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digital_architecture/ouranos/ouranos-project-yoryo.pdf

区分	項目	内容
応募資格		募集対象となるプロジェクトの事務局を務める組織・団体等（法人格の有無を問いません。）
審査視点	1. サービスの明確化	<p>データ連携の目的（連携によって解決される課題や効果等）と、目的に対応する連携データの内容及び連携が行われる当事者の範囲が明確になっていること。</p> <p>特定の者（たとえば、データ提供者、プロジェクト運営者等）の意向だけが反映されたサービスになっていないこと。</p> <p>特定の者（たとえば、既存参加者の競合事業者）を排除せず、広く一般に提供されることを前提としたサービスとなっていること。</p>
	2. データ主権の確保	<p>データ提供者が、データを提供するに当たり、提供するデータに関する一定のコントロール可能性が確保されていることを前提に、データへのアクセスを許諾することができる事実上又は法的な地位（以下「データ提供権限」といいます。）を定めるべく、以下いずれかの措置が講じられていること。</p> <p>▶ データ連携を開始するに当たりデータ提供者・データ利用者間で締結する契約（以下「データ連携契約」といいます。）において、データ提供権限に関する定めがあること。</p> <p>▶ 仕様やルール内に、データ提供権限を実現できる仕組みが備わっていること。</p>
	3. オープン性の確保	<p>データ連携に関する役割（例：提供者、利用者等）や参加基準が明確化されるとともに、公表されていること。</p> <p>サービスを利用するための技術仕様が参加者及び参加希望者に対して開示されていること。</p>
	4. 関係者との積極的な連携	<p>協調・共創で異業種間での価値創造するために、他の取組等との連携を検討・構築するための体制を有していること。</p>
	※その他（以下の要件に該当する場合は、応募時にその旨お申し出ください。）	<p>・応募を行ったプロジェクトの技術標準が、「Whitepaper：ウラノス・エコシステム・データスペースリファレンスアーキテクチャモデル1」に準拠していること。</p> <p>・応募主体が、情報処理の促進に関する法律第32条に基づく選定を取得していること。</p>

CONFIDENTIAL

「協調領域」を共創することで、
各社は自社の「競争領域」に資源を集中できます。



OEPCは、ウラノス・エコシステムの社会実装を産業界と共に推進する中核組織です



OEPCの役割：

一般社団法人ウラノス・エコシステム推進センター(OEPC)は、経済産業省が提唱する「ウラノス・エコシステム」を産業界とともに社会実装へ導く民間推進組織です。企業が持つユースケースを基に、価値検証・技術検証・事業検証を伴走支援し、最終的に経済産業省による「ウラノス選定」へとつなげる役割を担います。

OPECは、プロジェクト実現を加速させる 4つの価値を提供します



ユースケース創出支援

- ・プロジェクトの立ち上げ支援
- ・ビジネス、技術検証の伴走



パートナーマッチング

- ・価値を共有するパートナー企業、団体とのマッチング
- ・プラットフォーム、専門企業の紹介



業界横断の知見共有

- ・分科会を通じた先進事例の共有
- ・業界内外のエコシステム創出ノウハウ提供



ウラノスプロジェクト 選定支援

- ・経産省との連携
- ・選定に向けた計画や開発支援

OEPCは、アイデアの着想から「ウラノス選定」まで、 一気通貫でプロジェクトを支援します



N=1プロジェクト

まず小さい規模でビジネス価値と要件を固める。技術検証なども実施



エコシステム組成

価値を共有するパートナー企業を巻き込み、複数社でモデルを拡大。
ルールやインセンティブを整理



協調PF構築

ウラノスの枠組みを活用し、業界共有のプラットフォームを構築



ウラノス選定

経産省の選定※を受け、公的な後ろ盾を得ながら事業を本格展開

※ウラノス・エコシステムプロジェクト制度

ウラノス・エコシステム・プロジェクト制度

- 特定の仕様やルールに基づいて、複数の異なる事業者間でデータの連携を行うための機能が
- 先導プロジェクト（OLP）：応募時点で現にサービスとして提供されているとともに、参加者の受付を開始している取組
- 挑戦プロジェクト（OCP）：将来的にサービスとして提供することを目的としている取組

ウラノス・エコシステム・先導プロジェクト（OLP）

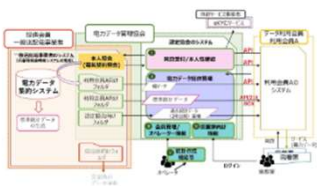
自動車・蓄電池のカーボンフットプリントおよびデューデリジェンスのデータ連携プロジェクト



プロジェクト運営主体：一般社団法人自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター（ABTC）

プロジェクト概要：欧州電池規則への対応も考慮し、カーボンフットプリント（以下CFP）およびデューデリジェンス（以下DD）のデータを安全・安心にサプライチェーン上の企業間で連携させる取組。

電力データ提供プロジェクト

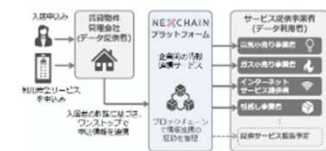


プロジェクト運営主体：一般社団法人電力データ管理協会

プロジェクト概要：全国8000万台のスマートメーターにおいて30分ごとに生成される電力使用・売電実績、電力取引の基礎となる電力データを、一般配送配電事業者（データ提供会員）から収集し、データ利用者（データ利用会員）に提供する取組。

[▶ 申請書](#)
48頁 2024.05.24

引越し手続きのワンストップサービスプロジェクト

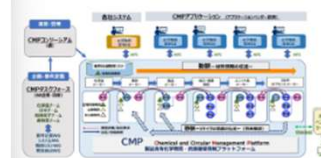


プロジェクト運営主体：一般社団法人企業間情報連携推進コンソーシアム（NEXCHAIN）

プロジェクト概要：賃貸住宅、電気、ガス、インターネット、引越し等のサービス提供事業者間で入居者の申込情報を連携し、引越しに伴う各種手続きをワンストップで完結する「引越し手続きのワンストップサービス」を実現する取組。

ウラノス・エコシステム・挑戦プロジェクト（OCP）

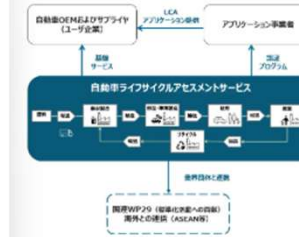
製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォームプロジェクト



プロジェクト運営主体：CMPタスクフォース

プロジェクト概要：製品含有化学物質に関する情報（材料情報及び化学物質情報）をサプライチェーン間で連携することにより、REACH規制等の化学物質規制に迅速に対応するとともに、当該情報の利活用を目指す取組。

自動車LCAプラットフォームプロジェクト



プロジェクト運営主体：一般社団法人自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター（ABTC）

プロジェクト概要：ライフサイクル全体を通してのCO2排出量を定量的に算定するため、サプライチェーン企業間を跨いだデータ連携を目指す取組。

[▶ 申請書](#)
[▶ 概要資料](#)

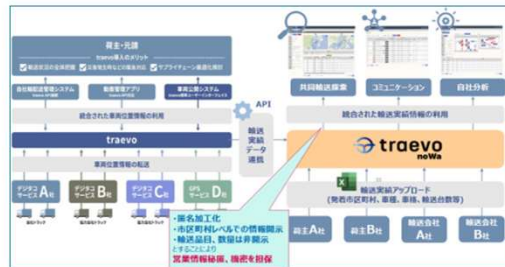
▶ウラノス・エコシステム・プロジェクト制度

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digital_architecture/ouranos_project.html

すでに先進的な企業が、 多様な領域でユースケース創出に取り組んでいます

ウラノス・エコシステム・先導プロジェクト（OLP）選定プロジェクト採用例

動態管理プラットフォームとその活用形での共同輸送マッチングプロジェクト



プロジェクト運営主体：株式会社traevo 一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会

プロジェクト概要：異なる車載機器サービスの動態管理情報を動態管理プラットフォーム traevo Platformにより一元化し、物流効率化法に対応した荷待ち荷役削減や共同輸送マッチング機能traevo noWaにより個社サプライチェーンと企業間の物流最適化を図る取組。

- ▶ [申請書](#)
- ▶ [概要資料](#)
- ▶ [詳しくはこちら](#)

他、サーキュラーエコノミープロジェクトなどを支援中

◆ 2026年度中に10のユースケース創出を目標とします

ウラノス選定を目指す、新たなユースケース 創出プロジェクトを募集します

募集内容



・ 自社や業界などの取組や課題をもとに、ウラノス準拠のユースケースとして検証したいプロジェクト

対象例



・ メーカー、ブランドオーナー、商社、業界団体、自治体など。規模や業種を問いません。
※まずは1社からの相談でも構いません

最初のSTEP



・ まずは、皆様の課題意識やアイデアをお聞かせください。OEPCが構想を伴走支援します
※まずは実行委員会メンバーが中心



未来の産業基盤を、共に創造しませんか。

お問い合わせ:

一般社団法人 ウラノス・エコシステム推進センター (OEPC)
ユースケース創出 担当窓口

<https://www.ouranos-ecosystem-promo-center.org/contact>

CONFIDENTIAL